

会長メッセージ

会長 栗原 靖之（横浜国立大学）

新型コロナウイルスの波は引いたかと思えば、また押し寄せる状態が続いています。いつになったら落ち着くのか見通せません。一方で、国際的にも明らかな侵略という不条理と日常生活の破壊。不確実な時代です。それでも、大学の教育研究を基盤で支える日常に変わりはなく、これを支えている機器センター関係者の皆様に深い敬意を表します。

さて、協議会ではここ2年ほど、主に技術職員の問題についてアンケート調査やシンポジウム、技術職員会議を通してその解決策を探ってきました。その中で、キャリアプランや職階、給与待遇の改善などの政策的な取り組みだけでは不十分で、根源的には現場の風通しを良くして、技術研鑽に励み、高度な技術を備えられるスキルアップのための環境作りの大切さが見えてきました。先日、旧国研の生物系技術職員との意見交換を行いました。その中で、「研究所の研究は私たちが支えている」という発言に感銘を受けました。往々にして研究室は点で活動しています。研究室横断的に働く技術職員は、研究室（点）間の情報を線でつなぐことで研究所全体のアクティビティを向上しているという強い自負です。私達が目指す技術職員のプライドを見た思いです。どんな活動を通してこういった意識づけができるかを協議会は模索していきます。

しかし、新生幹事会体制を敷いてから2年が経ちましたが、何も形にしておらず、会員校の皆さんの期待に応えられていない忸怩たる思いがあります。今年度は小規模集会やワークショップなど新しい試みを始めます。こういった、協議会活動に協力していただける方を募集します。是非、協議会に新しい風を吹き込んでください。どんな形の参加でも良いので会長宛にメールをいただければご相談させていただきます。

最後になりますが、年度末に文科省から「研究設備・機器の共用推進に向けたガイドライン」が公開されました。研究基盤を大学の経営基盤として捉えるというメッセージは、執行部、センター教職員、事務系職員、URL等の研究基盤に関わる全ての人の共通認識にしなければなりません。ガイドラインをこれらの人達にも読んでいただけるよう、協議会関係者の皆さんには所属機関内に積極的にアナウンスしてくださるようお願いいたします。

今年度は新体制幹事会の任期の最終年度に当たります。少しでも、皆さんの信託に応えられるよう一層努力してまいりますので、ご支援賜りますようお願い申し上げます。

幹事会報告

副会長（協議会運営担当）
多田 宏子（岡山大学）

2021年度10月総会以降、Zoom幹事会を4回開催しました（開催日：2021年11月9日、12月24日、2022年 2月3日、3月22日）。主な議事は以下の通りです。

- 1) 10/15に開催した「2021年度総会/シンポジウム」の反省を議論した。報告書は協議会ホームページで公開（会員限定）し、冊子体2部を会員・講演者へ配布した。来年度総会に向けて、総会実行委員会と幹事会の関係性や役割分担を再検討して「総会シンポジウム開催スケジュール・マニュアル」を作成することとなった。また、3年後の総会開催校は、開催地域を考慮して新潟大学を指名することとなった。新潟大学の内諾済み。
- 2) 技術人材委員について分子研の大原氏から佐賀大学・森氏への交代を承認した。12/6に開催した「技術職員会議」の当日講演会資料は協議会ホームページで公開した（会員限定）。「技術職員」の議論はかなり進んだので、次は文科省への提言に向けた活動をと提案された。

3) 10/25に開催した「文科省との対話集会～策定が進んでいる共用化ガイドラインについて～」、11/11開催の「ネットワークに接続できない分析機器をセキュアに接続するシステムに関するウェビナー」は概ね好評であり、このような「小規模集会・セミナー」等を今後はより計画的・効率的に開催すること、そのために開催テーマ等について会員向けアンケートを取ることとなった。

4) 各会員校の「第4期中期目標中期計画」の目標(12)の記載内容データとりまとめ精査を行なっている。各会員とこの項目の記載内容の重要性を共有認識するための企画を進めていく。

5) 大学連携研究設備ネットワーク(設備NW)事務局(分子科学研究所)と協議を重ね、本協議会に設備NWとの協働検討WGを設置することとなった。その他「生物学技術研究会」との意見交換など、新たな外部連携の可能性の模索を続けている。

以上、今後も設備共用・研究基盤の充実につながる幹事会活動に向けて、ご協力を賜りますようどうぞよろしくお願い申し上げます。

共用事業との関わり：採択校の多くの教員が関与。特に専任准教授が中核を担う

また、自由記述にも様々な課題が挙げられ、以下のように大別できました。

- ・人員不足とそれによる業務過多
- ・研究時間がとれず、評価されない
- ・センター運営の効率化
- ・執行部の理解が低い

アンケートの設問が適切でなかったところもあり、十分な現実把握には至っていないかもしれませんが、今まで何となく感じていたことが改めて定量的に見えてきたのではないかと思います。今後はより精度の高いデータとし、具体的な議論につなげていきたいと考えています。センター教員は各大学の研究教育を支える重要な人財です。また、センター運営の中核を担う人財です。その様なセンター教員のあるべき姿、理想の環境とは何か、それを達成するためには何が必要かについて議論できればと考えています。皆様からのご意見・ご提案をよろしくお願い致します。

広報委員会

委員長 野口 恵一(東京農工大学)

2021年度10月総会以降の広報委員会の活動は以下の通りです。

【報告事項】

総会・シンポジウム報告(2021.12.27 配信)
総会実行委員会と技術職員会議実行委員会
が取りまとめた会議資料を会員限定で配信
文科省との対話集会 事後アンケート報告
(2021.12.28 配信)
共用化ガイドライン説明会実施委員会
が取りまとめた事後アンケートを会員限定で
配信

報告書の配信に関する連絡が届いてない方が
おりましたら、幹事会までご連絡ください。
連絡先：kiki_kanjikai@googlegroups.com

【情報提供】

大学等における研究設備・機器の共用化のた
めのガイドライン等の策定に関する検討会
案内(第2回 2021.11.8、第3回 2022.1.24、
第4回 2022.2.24 開催)
分析機器をセキュアに接続するシステムに関
するウェビナー開催案内(2021.11.11 開
催)

委員会報告

事業検討委員会

委員長 森本 稔(鳥取大学)

事業検討委員会ではセンター教員向けのアン
ケートを実施しました。アンケートの集計結果
は令和3年度機器・分析センター協議会シンポジ
ウムで報告させていただきましたが、改めて振
り返ってみたいと思います。

専任教員の年代構成と職位：50代以上が7割、
半数が准教授

専門分野：化学系が半数、生物・医薬系が3割、
物理・材料系が1割強

専任教員のエフォート：センター運営の割合
が高い分、研究の割合が低い

業務評価：評価されているが半数を占める一
方、されていないが4割

執行部との連携：ある程度連携しているが6割、
ほとんど連携していないが4割

【情報提供】（つづき）

第9回北海道大学オープンファシリティシンポジウム開催案内（2022.1.21 開催）

研究基盤EXP02022 開催案内（2022.1.26-28 開催）

大阪大学 研究設備・機器共用シンポジウム開催案内（2022.2.1 開催）

佐賀大学 ダイバーシティ推進室シンポジウム開催案内（2022.2.28 開催）

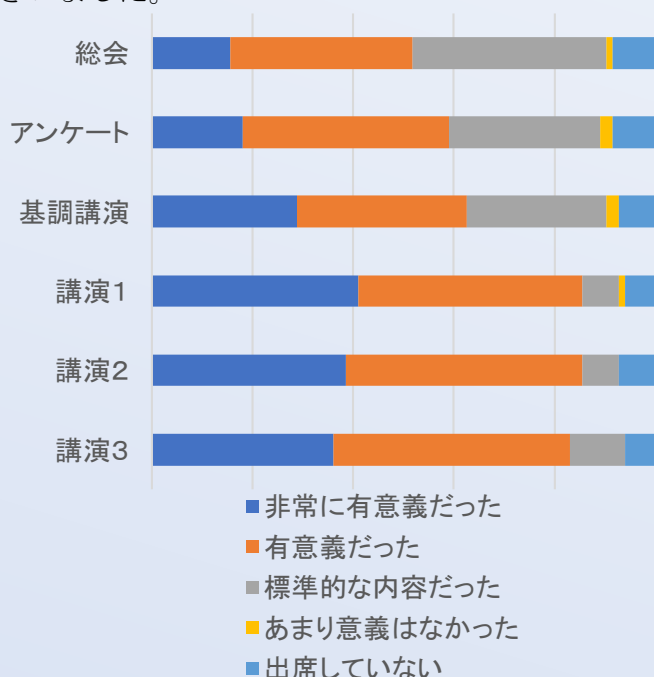
シンポジウム等の案内の配信を希望される場合は、幹事会までご連絡ください。連絡先：
kiki_kanjikai@googlegroups.com

【アンケート】

総会・シンポジウム ミニアンケート実施
（2021.10.21-29）

2021年10月15日（金）に開催した協議会総会・シンポジウムに関するアンケートの集計結果を簡単に報告します（回答者 83名）。

昨年度のシンポジウムでは「共用施設としての機器・分析センターの立ち位置と役割 ～理想と現実～」というテーマで、文部科学省の中村様の基調講演の他、筑波大学の永田様（講演1）、東京工業大学の梶原様（講演2）、佐賀大学の永野様（講演3）にご講演頂きました。参加者の多くは、いずれのご講演も有意義だったと感じており、様々なお立場からの設備共用を通じた研究支援への取り組みに関するお話は、置かれた立場の異なる各センター・施設にとって、それぞれ参考になる部分があったように思います。お忙しい中、ご講演頂きありがとうございました。



技術人材委員会

委員長 岡 征子（北海道大学）

2021年12月6日に技術職員会議を開催しました。事前アンケートのテーマを「技術職員のビジョン・ミッションと技術継承」とし、本協議会会員校に所属する技術職員の状況を整理して報告するとともに、好事例紹介を群馬大学の田部井由香さん、鳥取大学の松浦祥悟さん、埼玉大学の徳永誠さんに行っていただきました。ご参加くださいました皆さま、ありがとうございました。

さて、少しだけアンケート報告を振り返ってみます。

大問①「センターで働く私たち技術職員にとってのミッションやビジョン」では、センター等で働くにあたり、目指すべき方向性を認識できる状態にある技術職員は多くありませんでしたが、これらの明確化や共有は行動に根拠を生み、働きやすく、やりがいのある職場環境をつくる必要不可欠なことであることが示されました。また、日ごろミッションなどは具体的に振り返ったことがなく、今回のアンケートは良い機会になりましたという感想もいただきまして、準備した委員会としましても、アンケート実施の一つのミッションをクリアできました。

大問②「技術職員の配置や育成環境の現実と課題」では、業務量に見合った人員配置は出来ておらず、計画的な配置や育成がなされていないと感じる方が多く、業務整理の必要性が示されました。課題解決には、技術研鑽時間や予算の確保、人間力向上が大事であることも共通認識としてあげられています。

事例報告にありましたが、自身の抱えている業務量や自身のスキル水準を客観視した上でスキルアップにより業務時間や研鑽時間を作り、新たな技術提供へとつなげようと行動を起こしておられる方がいます。また一方で、周囲の状況を良く観察し、これって本当に必要な仕事だった？過去にとらわれずに止めるという決断も必要かも？というような柔らかな考え方をもちの方もおられるでしょう。所属機関によって状況は異なると思いますが、総じて、業務目標の確認、業務内容の把握・分配、スキル水準の客観視、将来的な到達目標設定、研修予算や時間の確保などを含め、センターの一員として所属

先教職員とともに考えていきたいという技術職員の想いが表れていたアンケート結果だったのではないかと思います。

最後に、新年度の本委員会活動ですが、過去2回のアンケートにおいて、たくさんの企画希望をいただきましたので、それらを実現していきたいと考えています。

引き続き、よろしくお願い申し上げます。

2021年6月16日

令和3年度第1回技術人材委員会

- ・昨年度のアンケートを元に今後のアクションを検討

2021年8月22日

令和3年度第2回技術人材委員会（メール会議）

- ・技術職員会議テーマ出し／アンケート内容検討

2021年9月初旬

技術職員会議実行委員選任

2021年10月9日～

技術職員会議実行委員会立ち上げ

- ・技術職員会議の広報／アンケート準備

2021年10月15日

機器・分析センター協議会 総会

- ・技術人材委員会報告/技術職員会議の広報

2021年10月19日～10月29日

技術職員アンケート実施

2021年10月29日～

- ・アンケート集計／講演者選定と依頼

2021年11月16日

令和3年度第3回技術人材委員会/技術職員会議実行委員会開催

- ・技術職員会議準備の進捗確認

2021年12月6日

技術職員会議 当日（115名参加）

2021年12月8日～12月13日

技術職員会議事後アンケート収集

2021年12月21日

技術職員アンケート結果/技術職員会議事後アンケート結果を公開

2021年12月31日

分子研 大原三佳委員 退任

2022年1月1日

佐賀大学 森加奈恵委員 就任

お知らせ

2022年度総会について

2022年度国立大学法人機器・分析センター協議会 総会・技術職員会議・シンポジウム開催概要

日時：令和4年10月21日（金）

開催形式：対面＋オンライン（予定）

シンポジウムテーマ：

「研究設備・機器の共用推進に向けた
ガイドライン」について（予定）

主催：国立大学法人機器・分析センター協議会

共催（開催校）：愛媛大学

実行委員会委員長：菅原卓也（愛媛大学
学術支援センター長）

午前 技術職員会議

午後 協議会総会・シンポジウム

夕方 懇親会

開催場所：愛媛大学 南加記念ホール
（城北キャンパス）

〒790-8577 愛媛県松山市文京町3

〔交通〕松山空港からJR 松山駅まで空港リム
ジンバス「JR松山駅前」下車～伊予鉄道市
内電車で環状線（古町方面行）「赤十字病
院前」下車、北へ徒歩2分

プログラムなどの詳細が決定次第、ニュースレ
ターとホームページを通してお知らせしますの
でふるってご参加下さい。

国立大学法人 機器・分析センター協議会 ニュースレター No.5

発行日：2022年5月25日

編集：国立大学法人 機器・分析センター協議会
広報委員会

発行：国立大学法人 機器・分析センター協議会

連絡先：kikikyogikai@gmail.com

Website: <https://sites.google.com/site/kikikyogikai/>

メーリングリスト：kiki_ml@googlegroups.com